

国指定史跡

おんな 堀

指定年月日：昭和58年10月27日 所在地：伊勢崎市下触町

お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会 文化財保護課
〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673
E-mail: bunkazai@city.isesaki.lg.jp

史跡女堀
詳しくはコチラ



伊勢崎市
ホームページ

女堀は、平安時代の終わり頃（約800年程前）に造られた、前橋市上泉町の桃ノ木川（旧利根川）から水を取り、伊勢崎市田部井町までの長さ13kmにもなる大規模なかんがい用水路です。

女堀は全国的にも極めて大規模な用水路跡にもかかわらず、古文書に記録は一切ありません。誰がいつどのような目的で掘ったのか「謎」とされ、その名称から「女性が一夜にして掘った」など伝説が伝えられています。



女堀のルート



前橋市飯土井町の発掘された女堀。堀幅30m、中央には幅5mの溝が掘られ、完成した形とされます。



伊勢崎市下触町国指定史跡女堀。堀を掘った土は、土手状に積み上げられています。

女堀の「謎」は発掘調査によって徐々に明らかとなりました。女堀を掘った土は土手状に残されていますが、土手の下から1108（天仁元）年に噴火した浅間山の火山灰（浅間Bテフラ）が確認されました。そのため1108年以降の12世紀中頃（約800年程前）に造られたと考えられています。さらに近年の発掘調査成果では、12世紀後半までの時期が想定されています。



堀を掘った土の下から見つかった、1108（天仁元）年の浅間山火山灰。（下触町）



■浅間Bテフラ降下範囲図
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団「女堀」より

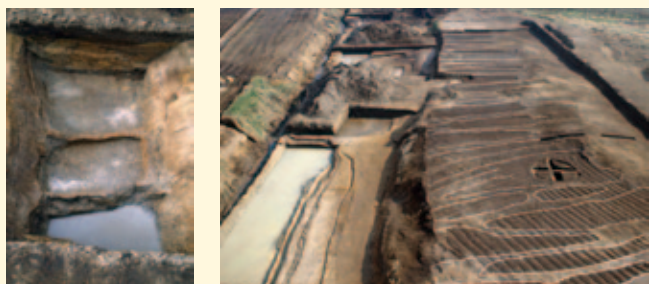
? 浅間山噴火!!

浅間山は現在でも活動を続ける火山ですが、これまでの規模の大きな噴火は発掘調査でも確認できます。

- ・天明3（1783）年
⇒浅間Aテフラ
- ・天仁元（1108）年
⇒浅間Bテフラ
- ・4世紀初頭
⇒浅間Cテフラ



女堀が造られた頃の荘園



前橋市東大室町：発掘調査では女堀の工事が途中の状態を確認されました。

? 女堀って？

女堀という名称は使われなくなった用水路を指し、それを老女(姥)に例え、姥堀が転じて女堀になったと考えられています。

一般に用水路は、途中に分岐を設けて広い範囲に水を分配していますが、女堀にはそのような分水構造は確認されていません。女堀の終点となる^{ふちなのしょう}淵名荘(現在の伊勢崎市北半分)だけに用水を送るもので、この工事を行ったのが淵名荘を開発した淵名氏と考えられます。当時、全国的に^{しょうえんかい}荘園開発が進む中で水田の大規模かんがい用水事業として女堀掘削工事が計画され、浅間山噴火で被害を受けた地域の再開発とあわせて、女堀の計画は用意されたのでしょう。

しかし、発掘調査の結果、女堀は工事が途中で中断し、その多くが完成されていないという事実が確認されました。その理由には、工事失敗説や淵名氏が合戦で敗れたためと指摘されていますが、未だ多くの「謎」が残されています。

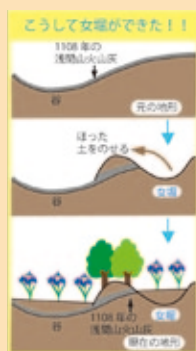
? ^{しょうえん}荘園ってなんだろう？

当時、貴族や武士たちは経済的な基盤を求めて領地となる荘園の開発を進めていきます。この地域では、淵名荘が^{とほじょうこう}つくられ、淵名荘は鳥羽上皇の妻である待賢門院璋子が建てた京都の^{たいけんもんいん}仁和寺法金剛院の領地であったため、現在の伊勢崎市北半分を占めた淵名荘は天皇家と関わりがあったようです。

国指定史跡女堀 伊勢崎市下触町



国指定史跡女堀 伊勢崎市



史跡女堀(赤堀地区)は、昭和58年に前橋市5箇所、伊勢崎市1箇所が国指定史跡となり、伊勢崎市では平成元年から史跡の保護と活用のため花しょうぶを植栽しています。波志江沼に続く谷に交差して女堀が掘られている点が大きな特徴です。



堀跡の発掘調査の様子



盛土の断面

